

義太夫

義太夫協会会報 第95号

平成24年7月15日

一般社団法人 義太夫協会 発行
〒104-0045 東京都中央区築地
4-1-1 東劇ビル17F
Tel 03 (3541) 5471
Fax 03 (3546) 2334
<http://www.gidayu.or.jp>

新法人の発足にあたって

義太夫協会会長 波多一索

義太夫協会は、この度の公益法人法改正にともない、本年四月一日付けにて東京都認可の一般社団法人へと移行いたしました。今後、義太夫の保存普及ならびに演奏家の育成などを通じて、伝統芸能の発展と技芸の向上に寄与してまいれる所存でございますので、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

とりわけ強調されたのは、文化財の保存継承とともに「不特定多数の者の利益の増進に寄与するもの」を旨指して欲しいと言うことです。言い換えれば、義太夫の楽しみをこれまで以上に多くの方々に知ってもらおう努力をしてほしいと言う意味です。

近年、能・歌舞伎・文楽や日本舞踊などの本格的な国際交流は、ますます盛んになってまいりました。しかし、女流義太夫の素浄瑠璃のような場合は、言葉の障害もあって海外公演など困難なものと思っておりましたが、このところ竹本越孝、鶴澤三寿々ほかの方々によるキューバ、コスタリカ、カナダなどの公演のお話を伺い大変興味を抱きました。もっとも、これまでもフランス公演など豊富な経験を踏まえての公演とのこと、ご成功を心より念じております。

かつて、私なども伝統文化の海外普及に関心を抱き、能狂言のインドネシア(バリ島)公演などに参画した事もございます。当時は

現在ほど海外の事情がわからず、先方が禁酒国なのに酒にちなむ狂言など準備しかけたり、難しいと思われた能の「羽衣」伝説などは相手国にも類似の説話などあって意外に喜ばれたり、プログラム一つ作るのにも大変苦勞したことを思い出します。

今春の邦楽ドラマ「初代竹本綾之助物語」(山本陽子主演、浄瑠璃・四代目綾之助ほか)の成功、好評の「義太夫教室」の拡充、日本舞踊や人形浄瑠璃など他団体との交流など、愛好者の拡大のためにすべきことは多く、今後ともよろしくご支援賜りたくお願い申し上げます。



はた いっさく

昭和8年東京生まれ。(財)ピクチャー伝統文化振興財団理事長を経て、現在、(社)義太夫協会会長、(社)日本小唄連盟副会長、(社)東京都民踊連盟会長など。伝統芸能の研究と保存活動を続けている。

義太夫協会は

一般社団法人へ移行しました

平成二十年の公益法人法改正に基づき、当協会は一般社団法人への移行手続きを進めてまいりましたが、平成二十四年四月一日付で東京都より移行認可を受けました。

今後も、義太夫節の保存、継承、発展にさらなる努力をしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

代表理事 波多 一索

理事 事 矢島 照代(竹本綾之助)

理事 事 上田 悦子(竹本駒之助)

理事 事 西野 宗佑(竹本弥乃太夫)

理事 事 小島美恵子(竹本土佐恵)

理事 事 香取 安代(竹本素丸)

——竹本駒之助・イン・金田中——

五月十二日。新ばし金田中において、和樂の「人間国宝塾第二期」が、駒之助を講師に迎えて開催されました。

和樂(小学館)は、「和の心を樂しむライフスタイルマガジン」として、女性に人気の月刊誌です。

この催しは六回シリーズで、和樂の購読者が塾生となり、毎回定員は五十名のみ、という何とも贅沢な企画であります。

駒之助は、第一回の中村吉右衛門丈に次いで登壇です。当日は演奏(阿古屋琴責の段)の後、葛西聖司さんとの対談―そして最後に、演者や演目に因んで用意された、金田中の特別な献立を味わう三部構成でした。

初めて義太夫に接したお客様も多かったのですが、演奏に続きスライドを使用しての対談も大好評。越路師匠との思い出話に感極った駒之助に、お客様もホロリとする場面もありました。

お食事はご主人の解説付きで、その内の一品をご紹介しますと、演者に因んだという「キングサーモン」―和名を「マスノスケ」というので、その上に「こまごま」と木の芽を添えて「駒之助」に見立てた、との事です。超一流のお料理に、言葉遊びの楽しさも加わって、皆様堪能された様でした。

この会の詳しい様子は、「和樂」に掲載予定です。是非お手にとって御覧下さい。

キューバ・コスタリカ・カナダで演奏

四月十八日(五月十日)にかけて、国際交流基金助成による車人形と女流義太夫の実演付き解説の事業が実施され、女流義太夫からは、越孝、三寿々が参加した。

内容は車人形(五代目西川古柳)のワークショップなどのほか、義太夫は車人形による「日高川」清姫のクドキ、「団子売」、素淨瑠璃で「殿中刃傷の段」の演奏、および義太夫に関する簡単な説明を行った。公演中の人形浄瑠璃に関するレクチャーやコーディネートは平間充子氏が行った。公演には、現地語による字幕がつけられた。

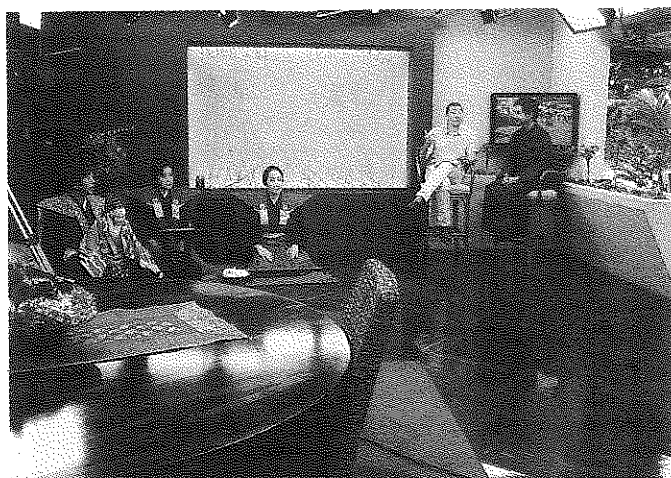
キューバへは四月十八日に入り、マタンサス市内における第十回マタンサス国際人形劇ワークショップフェスティバルへ参加、その後バナへ移動しての公演だった。

とくにマタンサスのフェスティバルは公演前から行列が出来るほどの大盛況で、大人から子供まで幅広い観客による大入り満員となった。キューバの人々は穏やかで紳士的、飲食店やアーケードなどでは昼夜音楽活動が行われ、生活の中に音楽が密着していることが感じられた。

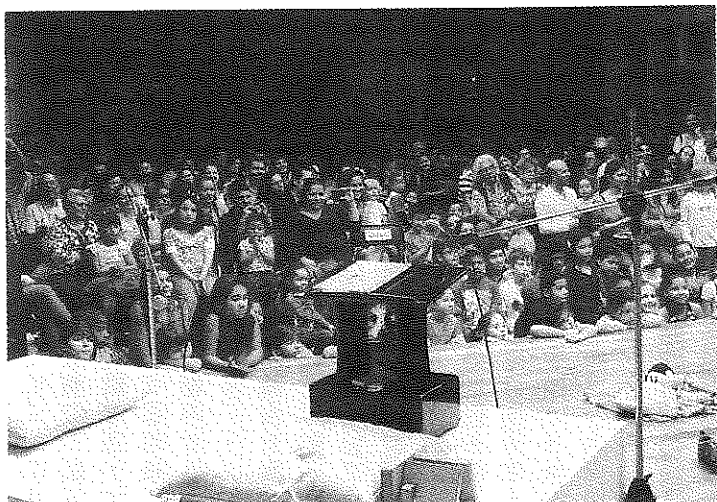
奏者の後片付けの最後まで興味深く見守る伝統楽器の演奏家もあり、配給生活という決して物が豊かとはいえない社会ながらも、音楽や人形劇を楽しみに素朴に暮らしている人々と触れ合うことができた。

二十五日にはコスタリカのサンホセへ移動、ナショナル大学およびサンタアナ市文化フェスティバルでの公演を行った。コスタリカへの日本企業の進出は以前からあったものの、とくに近年日本文化への興味がさらに高まった当地では日本語の勉強も盛んで、大学では日本の伝統文化に高い関心を寄せる学生が大勢集まり、一生懸命に日本語で感想を伝えてくれた。

またアニメやカラオケが流行しており、昭和の歌謡曲に詳しい若者がいたり、食事に集まった全員が箸を上手に使いこなせたりするなど、大勢の親日的なコスタリカの人々と交



テレビ出演(コスタリカ)



開演前の賑わい(コスタリカ)

流することができた。文化フェスティバルは予定より百人以上も上回る幅広い年齢層の観客に恵まれ、子供は最前列で拍子を取るなど、非常に大きな盛り上がりを見せた。

四月三十日にはカナダへ移動、バンクーバーではブリティッシュ・コロンビア大学など三箇所、そしてケベック・シティの文明博物館での公演を経て、最終地トロントの日系文化会館では、三百五十人にのぼる観客を前に公演を行い、盛況のうちに全行程の幕を閉じた。

公演期間中は、各国大使や総領事公邸への御招待に預かり、各地の興味深い話をうかがったり、コスタリカでは演奏会案内のために、五十年も続いているコスタリカ版「徹子の部屋」のような番組を含めた二つのテレビ出演があったり、合計十回にものぼる飛行機移動に加え、離島への水上飛行機による往復移動があったりと、滅多にない貴重な経験の連続だったが、無事に二十三日間にわたる長期行程を終了した。

アメリカ・桜まつり公演

ワシントンとニューヨークに日本から桜が寄贈されて百年目にあたる今年、日本舞踊の坂東登治さん率いる「おどりの空間」が桜まつりに招かれ、女流義太夫の竹本越孝・竹本越春・鶴澤賀寿・鶴澤弥々が参加した。

期間は三月二十二日から四月四日、桜まつりのワシントンとニューヨークの他フィラデルフィア・ボストン・タウソンの全五都市で公演し、四月十五日には横浜の久良岐能舞台で凱旋公演も行った。

演目は義太夫「三番叟」「蝶の道行」「吉野山」と地歌「珠取海女」。桜と、東日本大震災からの復興のメッセージを込めたプログラムは各地で好評を博した。

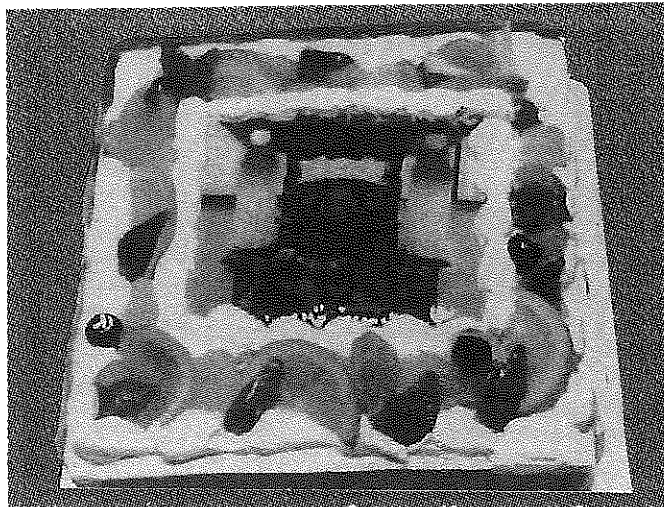
「震災に際して多大な支援をして下さったアメリカの方々への感謝の気持ちも込め、是非とも良い公演にしたかった」というニューヨーク駐在大使の言葉に、出演者一同の引き締まる思いだった。

竹本越道師匠百歳！

越道師匠は今年二月に満百歳を迎えました。お誕生日の前日、お祝いに集まった弟子たちを前に、「今日はみんな来て、何かあるのかい？」ときよんとする師匠。実は、弟子たち全員が一度に師匠のもとに揃ったのは、これが初めてのことです。

大勢の方から贈られた花やお祝いの品に囲まれて、昔話に花が咲きました。

越道師匠は、明治四十五年生まれ。六歳より義太夫の稽古を始め、十五歳で真打披露。娘義太夫の全盛期をスターとして過ごし、以



見台をデザインした特製パースデーケーキ

後も長年にわたり義太夫界を支え続けた大黒柱です。

平成十九年十二月の定期公演で「仮名手本忠臣蔵」七段目の大星由良之助を語って以来、舞台から遠ざかりましたので、この紙面をお借りして、最近の師匠の様子をみなさまにお伝えできればと思います。

このところ足腰が弱り、お稽古も難しくなりましたが、義太夫協会のこと、弟子たちのことは、常に気にかけて下さっています。

ご機嫌伺いに行くたびに「あんた、今度はいつ舞台に出るんだい？」と聞かれ、「この作品のことはこう語れと〇〇師匠が仰っていた」などと、義太夫に関しては何十年も前の事さえはつきり覚えていてアドバイスして下さるのは有難いことです。

また、得意だった演目は、一字一句違わず覚えているのですから、師匠の脳の構造はどうなっているのかと脅威を感じることもしばしばです。

そのわりに、自分の誕生日を忘れていたりなど、とぼけた風なところもあり、数ヶ月前には、「私は今度、八十歳になるんだっけ？」と仰って、周囲を哑然とさせました。越道師匠は今も健在です。

食事も今までと変わらず摂っていて、最近のマイブームは天婦羅うどん。おやつに柿ピー。一度気に入ると毎日のように食べ続け、ある日、突然飽きるというパターンが、ここ数年繰り返されています。

そういえば、昨年の東日本大震災のとき、

「お師匠さん、怖かったですよ、大丈夫でしたか？」と心配すると、「いや。関東大震災の方が怖かった」という答え。当時まだ少女だった師匠も、家族総出ですいとんなどを作って被災者にふるまったというエピソードを聞きました。

また愛用の三味線は、戦時中、疎開先にも持っていたものだそうで、そういう話を聞くと、師匠の義太夫人生も決して順風満帆だったわけでないことを思い知らされます。どんな状況でも自分の進むべき道を信じて、明るく乗り切ってきた師匠。肝っ玉母さんと呼んでは叱られるかもしれませんが、この方の側にいれば安心だとか、何故だかわからないけれど明るい気分になる、というようなオーラが師匠にはあるようです。これからも、女流義太夫界の母として、私たちを見守り続けてほしいと心から願っています。

(竹本越春)

12月公演のお知らせ

平成23年度より偶数月は国立演芸場、奇数月はお江戸日本橋亭で開催してまいりました女流義太夫演奏会ですが、平成24年12月は国立演芸場が改修工事により使用できません。そこで変則的ですが、

12月17日(月) お江戸日本橋亭

での開催を決定いたしました。皆様お誘い合わせの上御来場下さいませ。

義太夫協会記録音源復刻にあたって

SEIBI工房 鳥居 誠

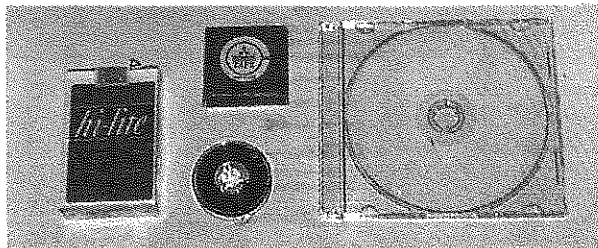
CD全集「竹本駒之助の世界」の制作で義太夫協会とご縁をいただいた以来、協会が保管してこられた古いオープンテープのデジタル復刻するお役を頂戴いたしました。

最初に手がけたものは主に故竹本綾太夫師が公演中に記録されたものでした。そして昨年秋にそれとは別の超小型のオープンリールテープの復刻も仰せつかり、先月ようやくオリジナルコピーのCDRを協会に納めたところで、

はじめ復刻したオープンテープは、昭和33年の三越劇場の録音から昭和61年の演芸場でのものまでと、録音状態や保存期間などの条件は様々でした。そのため中には既に再生不可能な状態まで劣化したものも存在しましたが、幸いほとんどのものがデジタル化するこ

とが出来、それらの中からこれまで3回にわたって「本牧亭を聴く会」にて皆様にもその一部をお聴かせ出来た次第です。

一方、今回お預かりしたミニテープ（正式名称は不明）は、通常の再生用オープンリールテープで最も小さい3号リールのさらに半分以下の大きさの超小型のものでした。私もこのテープを見るのは今回が初めてのこと、再生するにあたって作業前にこのメディアについて調査する必要があります。調べていくと、このメディアはカセットテーププレコーダーが一般化する直前に、超小型の録音機として極めて短期間製造されたものだというこ



こんな小さい「ミニテープ」

とがわかりました。現在実働する機械が存在するのかわか、ネットや仲間のエンジニア達から情報を集めてみましたが、残念なことに専用の再生機はいまや博物館と極一部のマニアの方のところにはしかないことが判明。今回デジタル化にあたっては通常のオープンデッキによって高速再生してコンピュータ上で時間軸を引き延ばすという手法をまず試してみました。幸いこれで問題なく再生できることが分かり作業を開始しましたが、大きな問題は、このテープ自体が極めて薄く作られているため、通常のテープレコーダーでは再生時にかかるテンション（引っ張る力）が強すぎ、うっかりするとテープ自体が棒状に伸びてしまふことでした。それを回避すべく、リールの

の移し替えや早送りの巻き戻しには細心の注意が必要でした。この直径4cmにも満たない極めて小さいテープには片面42分（往復84分）もの記録が可能で、104本分の音は最終的に113枚のCDRとなりました。録音内容は、ほとんどが昭和40年代前半の本牧亭で記録されたものです。当時のファンの方が客席で録音されたものと

伺っています。当時は今のよう会場での無断録音に対してもおおらかだった時代なのでしょう。もちろんこれはその意味では「海賊版」ということになりましたが、今のようになっても簡単に録音したものを配信や販売物に出来てしまうという時代ではなかったこともあったのでしよう。結果的にはこの頃の貴重な演奏を奇跡的に後世に伝えることが出来た音源です。さらに特筆すべきは録音データ（収録日、演奏者名）が実に正確に記載されていたことに加え、片面42分を越える演目についても、その多くが2台の機械を使用してオーバーラップさせて記録してあるという念の入りの様。今回は敢えてそれを編集して通しの演奏としてはCDR化はしていませんが、それらはこの後通しで聞くことの出来るように編集することも十分に可能です。今回は記録されている音を重複している部分も含めて全て忠実にデジタル化することに専念しました。とをご理解いただければ幸いです。

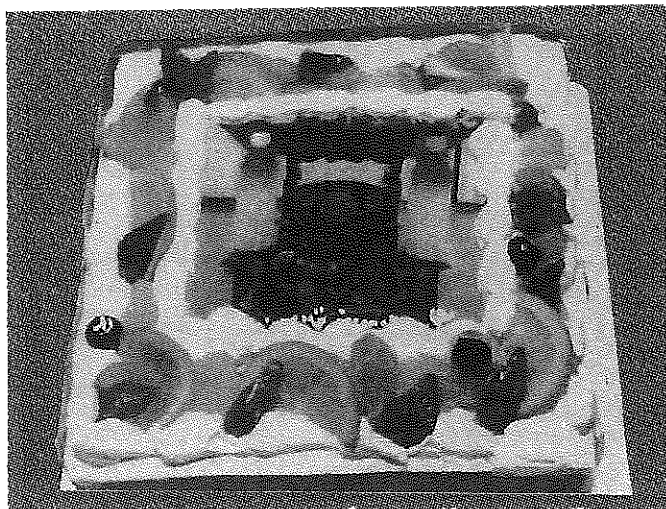
今回のミニテープ以前にデジタル化した音源の内容についてはSEIBI工房のホームページにもご紹介しておりますが、近い将来、ミニテープの情報もデータがまとまり次第、ページで紹介できることと思っております。ご興味がある方には是非ご覧いただければと思います。また、しばらくお休みしていただいた「本牧亭を聴く会」を再開して、これらの音も皆様にお聴かせできるチャンスをお設けたいと考えております。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

竹本越道師匠百歳!

越道師匠は今年二月に満百歳を迎えました。お誕生日の前日、お祝いに集まった弟子たちを前に、「今日はみんな来て、何かあるのかい?」ときよんとする師匠。実は、弟子たち全員が一度に師匠のもとに揃ったのは、これが初めてのことです。

大勢の方から贈られた花やお祝いの品に囲まれて、昔話に花が咲きました。

越道師匠は、明治四十五年生まれ。六歳より義太夫の稽古を始め、十五歳で真打披露。娘義太夫の全盛期をスターとして過ごし、以



見台をデザインした特製パースデーケーキ

後も長年にわたり義太夫界を支え続けた大黒柱です。

平成十九年十二月の定期公演で「仮名手本忠臣蔵」七段目の大星由良之助を語って以来、舞台から遠ざかりましたので、この紙面をお借りして、最近の師匠の様子をみなさまにお伝えできればと思います。

このところ足腰が弱り、お稽古も難しくなりましたが、義太夫協会のこと、弟子たちのことは、常に気にかけて下さっています。

ご機嫌伺いに行くたびに「あんた、今度はいつ舞台に出るんだい?」と聞かれ、「この作品のここはこう語れと〇〇師匠が仰っていた」などと、義太夫に関しては何十年も前の事さえはつきり覚えていてアドバイスして下さるのは有難いことです。

また、得意だった演目は、一字一句違わず覚えているので、師匠の脳の構造はどうなっているのかと脅威を感じることもしばしばです。

そのわりに、自分の誕生日を忘れていなど、とぼけた風なところもあり、数ヶ月前には、「私は今度、八十歳になるんだっけ?」と仰って、周囲を啞然とさせました。越道師匠は今も健在です。

食事も今までと変わらず摂っていて、最近のマイブームは天婦羅うどん。おやつに柿餅。一度気に入ると毎日のように食べ続け、ある日、突然飽きるというパターンが、ここ数年繰り返されています。

そういえば、昨年、東日本大震災のとき、

「お師匠さん、怖かったですよ、大丈夫でしたか?」と心配すると、「いや。関東大震災の方が怖かった」という答え。当時まだ少女だった師匠も、家族総出ですいとんなどを作って被災者にふるまったというエピソードを聞きました。

また愛用の三味線は、戦時中、疎開先にも持っていたものだそうで、そういう話を聞かされたに、師匠の義太夫人生も決して順風満帆だったわけではないことを思い知らされます。どんな状況でも自分の進むべき道を信じて、明るく乗り切ってきた師匠。肝っ玉母さんと呼んでは叱られるかもしれませんが、この方の側にいれば安心だとか、何故だかわからないけれど明るい気分になる、というようなオラが師匠にはあるようです。これからも、女流義太夫界の母として、私たちを見守り続けてほしいと心から願っています。

(竹本越春)

12月公演のお知らせ

平成23年度より偶数月は国立演芸場、奇数月はお江戸日本橋亭で開催してまいりました女流義太夫演奏会ですが、平成24年12月は国立演芸場が改修工事により使用できません。そこで変則的ですが、

12月17日(月) お江戸日本橋亭

での開催を決定いたしました。皆様お誘い合わせの上御来場下さいませ。

ほんに気がメリヤス(十一杯目)

鶴澤 慎治

現代人の必須アイテムになった携帯電話、そして猫も杓子もスマートフォンのおかげ、とある国内メーカーに「MEDIAS」なる機種が！はて、どこぞで聞いたような名前：そうです、以前にも書きましたが、三味線音楽の「メリヤス」の語源説の一つ、伸縮自在の編物の「メリヤス」は、もともとスペイン語の「Medias(靴下)」が転訛したもの。

まあ、スマホの方は英語の「Media(媒体)」から作り出した名前だろうと推察されますが、本当にメリヤスの如く伸び縮みする画面が3Dでスマホから飛び出す、みたいなのがあったらいいな：というくだらない妄想をマクラにして、今回は、来るべきIT社会(最近はICTと言うようですね)に対応した記譜法を考察したいと思います。

皆さまよくご存じのように、義太夫三味線の記譜法「朱は、「いろは」を各勘所に当てておりますので、ひと文字で「どの糸のどのツボか」つまり(伝統的な義太夫三味線の曲節の)音高を表わすことができます。

ですから、五線譜(音高を記すために最低でも五本)や文化譜(どの糸かを記すために三本)とは違い、一本線の上に音の長さが分るように並べれば、おおよその曲の姿が伝達可能ではないか、ましてや仮名ということであれば、修飾情報のないテキスト文字や、ケー

タイメールでも記譜可能ではないか、ということ、同じ曲を義太夫朱とテキスト朱で記してみました。(譜参照)

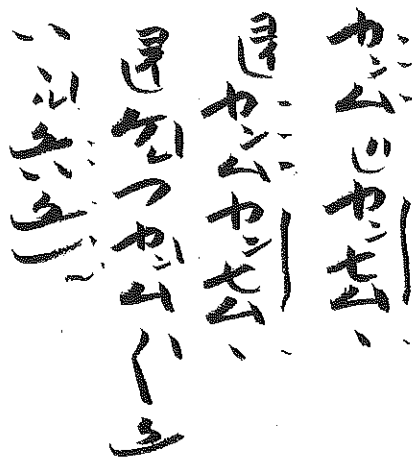
この曲は、本年三月国立劇場公演「一谷嫩軍記」林住家の場において、平忠度が討手を退ける立ち廻りに使用したメリヤスです。

前回この場が大歌舞伎で上演された際には、文楽さんで上演する際に演奏するのと同じ、箏曲「六段」の初段をくずしたメリヤスを使っています。今回は、今回主演の團十郎丈から「必ずしも前回の音通りでなくてもよい」と伺っていたので、同じ「六段」から、二つ新たにアレンジしたものを用意した、その内の一つです。「六段」の最後三十秒位をメリヤス化しました。

テキスト朱は、全角四文字で四分の二拍子一小節、ツボについては、「エ」や「ケ」など、普段見慣れているものについてはカタカナにした方が直感的に分るかな、とも思いましたが、さしあたり混乱を避けるため全て平仮名、スクイやハジキ、スリなどは口三味線をカタカナで表記しています。

そもそも、このような記譜法を思いついたのも、音声や画像などの大容量ファイルを使いインターネットを介してやりとりするのは大変だから、文字情報だけで曲を伝えられないか、というところが出発点でしたが、冒頭で述べたような妄想(スマホの画面から床本が3Dで現れるとか、見台の天板が液晶画面になって、その都度必要な本が音声入力でサーバーから呼び出せるとか)が技術的には恐らく可

能とも思える現在では、あまり意味をなさないかも知れません。が、何事も「少ししかないものを上手に使う」ことを考える方が、い로운な意味で豊かになれるような気がするの、は私だけでしょうか。



〇〇ね〇
むむむ〇
むむん
ははわい
んん
わわむね
〇むわが
むんつね
んわけれ
わ〇〇か

「六段くずし(二)」
右—義太夫朱(縦書き)
左—テキスト朱(横書き)

「邦楽ドラマ 竹本綾之助物語」

明治時代の娘義太夫で、たくさんのファンが追いかけて回し「おっかけ」の言葉ができたほどの大スター、初代竹本綾之助を主人公にした邦楽ドラマが、さる三月二十日～二十二日、紀尾井小ホールにて上演されました。お芝居は役者さん、義太夫演奏は女流義太夫が担当しました。

脚本 中川俊宏

演出 大場正昭

出演 山本陽子(初代竹本綾之助)／光本幸子(樋口一葉)／大津峯子(お勝)／寺杣昌紀(藤田福次郎)／大場泰正(石井健太)

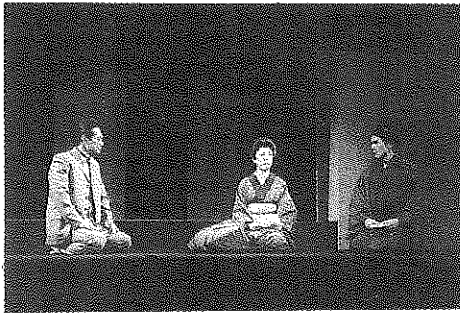
演奏

浄瑠璃 四代目竹本綾之助 竹本土佐恵

竹本綾一

三味線 鶴澤寛也 鶴澤津賀榮 鶴澤駒清

主催 (公財) 新日鉄文化財団



写真提供 新日鉄文化財団

協賛 三菱商事株式会社

ヒロイン山本陽子さんは、綾之助の可愛く勝ち気な娘時代から、芸や私生活の困難をのりこえ芸人として女性として成長していく姿を、見事に演じられました。

また「綾之助さんは女性が職業をもつことが大変だった時代に、自分をしっかり持っていた。今回、演奏部門は女流義太夫の方が担当したので、もし再演があればその時は少しでも浄瑠璃を語れるように、これから義太夫をお稽古したい」と意欲を燃やしていらっしゃいました。

舞台装置は大御所朝倉撰さんによるもので、とてもシンプルですが奥行きが感じられ、大変好評を博しました。

義太夫演奏は、初代綾之助が得意であったという「本朝廿四孝 十種香の段」「新版歌祭文 野崎村の段」など数曲を、お芝居途中に舞台にすげられた床で演奏。フィナーレでは華やかに六人勢揃いで舞台中央で演奏し、おかげさまでお客さまのたくさんの拍手を頂戴しました。

慣れないことばかりで、なかなか苦勞の多かった女流義太夫陣でしたが、この拍手でその苦勞も吹き飛ばす思いでした。お運び下さったみなさまに心よりお礼申し上げますとともに、ぜひ女流義太夫をからめた舞台を、と制作して下さった紀尾井ホールのみなさまにも感謝申し上げます。

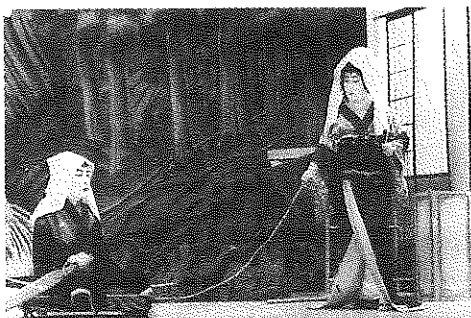
追悼 豊澤時若



当協会会員の豊澤時若(本名兼元末次)が、昨年十二月十日逝去されました。享年八十歳。戒名 兼豊時若信士。

【芸歴】幼少より俳優中村時子の弟子となり、昭和二十年九月京都南大正座「蝶花形名歌島台」小坂部館の笹市で俳優として初舞台。豊澤時若を名乗っての竹本として初舞台は四十年頃「艶容女舞衣」酒屋の場の三味線。四十五年二代目中村福太郎を襲名。以後、俳優と竹本の両方で全国を巡演。五十一年松竹大歌舞伎の竹本となる。(社)伝統歌舞伎保存会会員。竹本協会名誉会員。

近年は全国巡演時の豊かな経験を生かし、演出家・指導者として活躍しておいででした。ご冥福をお祈り申し上げます。



「箱根霊験覽仇討」で初花を演じる時若

協会の動き

11年12月より
12年6月まで

- 12月17日 義太夫教室中級終了
於豊川稲荷文化会館
- 12月17日 理事会
於豊川稲荷文化会館
- 12月19日 総会
於国立演芸場
- 12月19日 女流義太夫演奏会
於国立演芸場
- 12月22日 乙女文楽ワークショップ
於現代人形劇センター
- 12月27日 乙女文楽ワークショップ
於現代人形劇センター
- 1月7日 ぎだゆう座新春公演
於お江戸両国亭
- 1月10日 乙女文楽ワークショップ
於現代人形劇センター
- 1月14日 義太夫教室稽古始め
於豊川稲荷文化会館
- 1月17日 乙女文楽ワークショップ
於現代人形劇センター
- 1月20日 女流義太夫演奏会
於お江戸日本橋亭
- 1月21・22日 益田糸操りワークショップ
於島根県芸術文化センター
- 1月23日 普及部会
於ルノアール
- 2月1・2日 「ぎだゆう座」公演 二日間
於上野広小路亭
- 2月22日 女流義太夫演奏会 第三十一回
伝承者研修発表会 於国立演芸場
- 2月25・26日 益田糸操りワークショップ
於島根県芸術文化センター
- 3月1・2日 「じょぎ」公演 二日間
於上野広小路亭
- 3月3日 邦楽演奏会
於国立小劇場
- 3月7日 編集部会
於協会事務所
- 3月10日 義太夫教室OB会
於スペースFS汐留
- 3月10・11日 益田糸操りワークショップ
於島根県芸術文化センター
- 3月17日 義太夫教室第64期閉講式
於豊川稲荷文化会館
- 3月20日 女流義太夫演奏会
於お江戸日本橋亭
- 3月23日 芸団協総会
於オペラシティ会議室
- 3月30日 普及部会
於キリンシティ
- 3月31日 第九回素浄瑠璃の会
於お江戸日本橋亭
- 4月1日 一般社団法人登記
於上野広小路亭
- 4月1・2日 「ぎだゆう座」公演 二日間
於上野広小路亭
- 4月8日 第九回はなやぐらの会
於紀尾井小ホール
- 4月14日 一日体験教室
於豊川稲荷文化会館
- 4月21日 義太夫教室第65期開講式
於豊川稲荷文化会館
- 4月23日 女流義太夫演奏会
於国立演芸場
- 5月1・2日 「じょぎ」公演 二日間
於上野広小路亭
- 5月2日 理事会
於協会事務所
- 5月3・4日 乙女文楽若手公演
於ひとみ座第一スタジオ
- 5月10日 公演部会
於銀座区民館
- 5月13日 乙女文楽と女流義太夫
於久良岐能舞台
- 5月18日 総会
於築地社会教育会館
- 5月20日 女流義太夫演奏会
於お江戸日本橋亭
- 5月26日 第九十六回大日本素義会
於鳥越神社白鳥会館
- 5月29日 第十回たつみ会
於お江戸日本橋亭
- 5月31日 編集部会
於協会事務所
- 6月1・2日 「ぎだゆう座」公演 二日間
於上野広小路亭
- 6月22日 理事会
於協会事務所
- 6月25日 女流義太夫演奏会
於国立演芸場
- 6月30日・7月1日 益田糸操りワークショップ
於島根県芸術文化センター
- 7月1・2日 「じょぎ」公演 二日間
於上野広小路亭
- 7月7・8日 益田糸操りワークショップ
於島根県芸術文化センター